

- **検討の進め方**
 - ・他の都道府県でも少子化の問題を抱えているが、それぞれ事情は異なっている。本県が抱えている状況をしっかりと把握して検討していく必要がある。
 - ・教育だけではなく、福祉や産業など分野を超えて議論することが必要である。
 - ・様々な方の知見を借りて、15年、20年後でも古くならないシステムを考えていく必要がある。
- **学校・学科配置**
 - ・物理的に点在する生徒達をどのように集めて、高校生らしい学びを提供するためにはどうしたら良いか考えることが根底にあると思う。高校への寄宿舎の設置は考えられないか。
 - ・英語科など入試倍率が高い学科を各所に配置することで、子供達が将来を選ぶ際の道筋が多くなるのではないか。
 - ・地域に学校を残す形として、市町村立高校の可能性もある。
- **学校の魅力化・特色化**
 - ・全国、海外から生徒を呼び込むような宮城県ならではの魅力づくりも必要ではないか。
 - ・生徒の学習意欲を喚起するためにも、生徒の学習ニーズを中心としたカリキュラム編成にしていくことが重要である。
- **生徒の進路選択**
 - ・中学生に対して高校の内容を分かりやすく伝えることはもちろん、実際に学んでみることも重要であると考えており、その点くり募集は有効ではないか。
 - ・中学校のうちから将来を考える学びを取り入れることが必要ではないか。
- **様々な背景を抱えた生徒への対応**
 - ・中学校時代の学びの状況を高校に引き継いでいるか検証が必要。簡易に情報伝達できる仕組み作りの検討も必要ではないか。
 - ・中学校では、特性を持つ生徒に対してその子に応じた指導を実施しているが、高校でもその環境があると良い。
 - ・不登校生徒数の増加要因を分析していく必要がある。
 - ・全国的に私立の広域通信制高校への進学者が増えているが、県内の動向を把握する必要がある。
 - ・中途退学者を無くすための高校の在り方についても検討が必要ではないか。
 - ・インクルーシブ教育について、通級指導も含めて、様々な支援体制が整ってきているところは承知しているが、その充実についても本審議会で議論いただきたい。学校の先生はもちろん、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、1つのチームとして取り組んでいく必要がある。
 - ・スクールロイヤーの拡充が必要ではないか。

○ 地域等との連携

- ・ 県立高校と地域との関わりを深めるための仕組み作りを検討していただきたい。
- ・ 地域には部活動をはじめ、様々な立場の有識者がいるのでぜひ活用いただきたい。
- ・ 教員の負担を軽減するために、講演会等の実施の際には、PTAの力を使っていただきたい。
- ・ 高校生の就職率が低下してきていることに加え、大手企業でも高卒者を対象とした採用活動を行っているため、中小企業での採用が難しくなっている。生徒や先生に中小企業の魅力を知ってもらうために、先生方に周知する機会を作っていただきたい。

○ その他

- ・ 週末に部活動やテスト等があり、生徒も休む暇がないため、そのサポートについて今後検討が必要になるのではないか。
- ・ 教職員のモチベーションをこれまで以上に高めることに繋がる改革案が重要と考えている。
- ・ 子供の教育に係る予算は手厚くしていただきたい。特に人件費について、生徒と教員が触れ合う機会を確保するためにも、様々な人材を学校に配置いただきたいと考えている。
- ・ 小・中学校においても生徒数は年々減少しており、小学校1年生から中学校3年生まで単学級という小・中学校も少なくはなく、そこに在籍している生徒、高校に対して新たな出会いや多くの人との関わりを求めていると思う。